

第 29 号

平成 30 年 9 月 26 日 (水)

教育情報紙

発行：島根県教育委員会
(教育指導課)

TEL：0852-22-5421

Mail：shidou@pref.shimane.lg.jp

全国学力・学習状況調査結果の活用について

教育指導課学力育成スタッフ上席調整監
村松 洋子

今年4月に実施された「平成30年度全国学力・学習状況調査」について、本県の結果とその分析をお届けします。今年度は7月下旬という、例年よりも1ヶ月早い時期に文部科学省から結果が返却されましたので、各市町村教育委員会、各学校におかれましても、この夏の間結果分析が行われたことと思います。改めて申し上げるまでもなく、本調査の目的は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策や各学校における教育活動について成果と課題を検証し改善を図ることにあります。今回の調査結果が今後の教育活動の一層の充実のため有効に活用されることを期待しております。

さて、この夏、小学校等対象新学習指導要領に関する各教科等説明会を開催しました。今回の改訂の主なポイントに、「社会に開かれた教育課程の実現」「『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善の推進」「カリキュラム・マネジメントの充実」があります。

このうち、『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善が目指すことは、次世代を切り拓く子どもたちに必要とされる資質・能力の育成です。資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理されたことをご承知と思いますが、例えばその中の「知識及び技能」については、児童生徒が学習の過程を通じて個別の知識を学ぶだけでなく、そうした新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにしていくことが重要とされています。このような知識の理解の質を高めるには、習得・活用・探究という学びの過程の充実に向けた取組を進める必要がありますが、それが『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善ということになります。

また「カリキュラム・マネジメント」には3つの側面があります。①教育目標の実現に必要な各教科等の教育内容を教科等横断的な視点で組織的に配列すること、②教育課程の実施状況を評価し改善するPDCAサイクルを確立すること、③教育課程の実施に必要な人的・物的資源等を地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせることです。全国学習状況調査の学校質問紙にはカリキュラム・マネジメントに関する質問事項も含まれています。自校の結果を振り返ることで、カリキュラム・マネジメントについての成果と課題を明確にし、さらに充実を図ることができると考えています。

新学習指導要領は、小中学校等については今年度から移行期間に入り先行実施されている部分があります。冒頭で申し上げたように、全国学力・学習状況調査の目的はPDCAサイクルを回すことにあります。今回お届けする調査結果と分析を各学校の教育活動の充実に役立てていただくことを重ねてお願いいたします。

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の結果分析

4月17日に実施した全国学力・学習状況調査の結果について島根県と全国を比較し、分析しました。詳細は、10月に各教育事務所ごとに開催します小中学校管理職説明会で解説します。

また「平成30年度全国学力・学習状況調査島根県（公立）の結果概要」については、教育指導課HP（<https://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/zenkokugakuryoku.html>）に掲載しておりますので、ご覧ください。

この教育情報紙では、学校現場の皆さんに特に意識していただきたいことにしぼって掲載しますので、各校での分析や教育活動の改善に役立てていただければ幸いです。

【質問紙調査の回答状況】

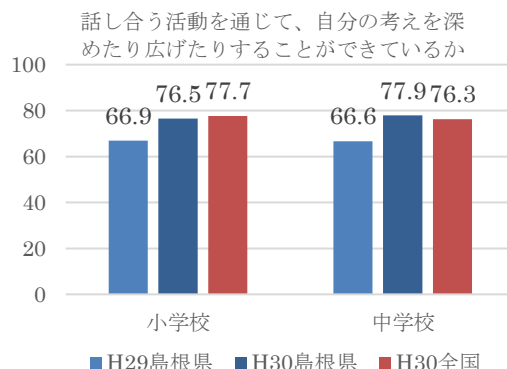
結果の概要（島根県と全国の比較）

- 地域の人材の活用について肯定的回答の数値が高い。教育活動に必要な地域資源（ひと、もの、こと）を効果的に活用して、地域と連携・協働した教育活動を展開している学校が多い。地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある児童生徒も多い。
- 小学校では、「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、学校全体で教育活動を改善するために活用した」割合が全国と比較して高い。全国学力・学習状況調査を県独自の学力調査と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画への反映を行っている小中学校の割合は、増えてきている。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」について肯定的な回答した児童生徒の割合が大きく増加した。指導計画の作成に当たって、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育内容を組織的に配列している学校も増加した。
- △ 小学校算数への関心等を尋ねる項目では、「算数の勉強は好きだ」という児童の割合は伸び悩み、全国平均と比較して依然として低い状況にある。「算数の授業の内容はよく分かる」と回答する割合は少しずつ上昇してきている。
- △ 中学校第3学年の家庭学習には引き続き課題があるが、保護者への働きかけを行った学校は前年と比較して大きく増加した。また、学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強する中学校3年生の割合については依然として全国との差は大きい、これまでの調査の中では最も高い割合である。

【過去に課題の見られた項目の回答状況・新たに見えてきた課題】

- 1 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した児童生徒が増えてきています

児童生徒質問紙の「児童生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」という問いに対して、肯定的な回答をした割合は、小学校・中学校ともに全国平均並ですが、昨年度の島根県の数値と比較すると、小・中それぞれ9.6ポイント、11.3ポイント上昇しました。



これは、各学校において授業改善の重点として、授業の中でペア学習やグループ学習を取り入れるなど、教員から一方通行型の授業ではない取組が定着してきている表れだと考えられます。

新学習指導要領のキーワードの一つに、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善がありますが、児童生徒質問紙からも、各校での新学習指導要領に対応した授業改善が進みつつあることが窺えます。

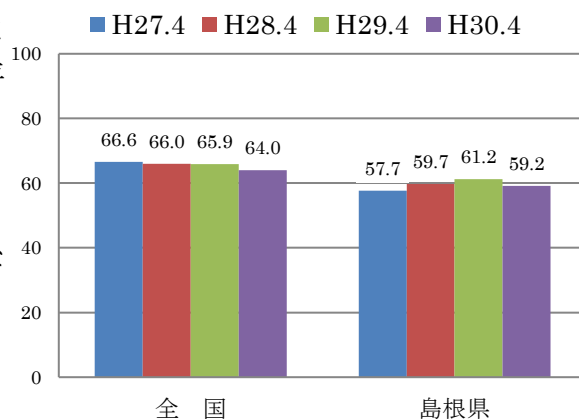
2 算数の勉強が好きだが増える取組が一層必要です

依然として算数・数学に課題がある状況が続いています。小学校、中学校ともに算数・数学において全国の平均正答率との差が大きい状況です。

県教育委員会では、全教科にわたる授業改善を進めるための切り口として算数を取り上げています。「算数の勉強が好きだ」という児童を増やすことが、学力につながるという仮説を立て、このことを検証する試みとして、平成28年度から県内8校を算数授業改善推進校に指定し、「子どもの声でつくる算数授業づくり」を進めています。

児童質問紙調査において、「算数の勉強が好きだ」という回答をした小学校6年生の割合は、これまで少しずつ伸びてきていました。しかし、今年度59.2%と伸び悩み、平成28年度並みになりました。「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合は、少しずつ伸びてきていますが、学習意欲を高めることが学力育成につながるとして進めてきたこの事業を、検証する必要があります。どうすれば授業改善の動きが推進校から全県に広がり、すべての学校で一層の授業改善が進むようになるのかを考えていきます。

算数の勉強が好きだ（小6）

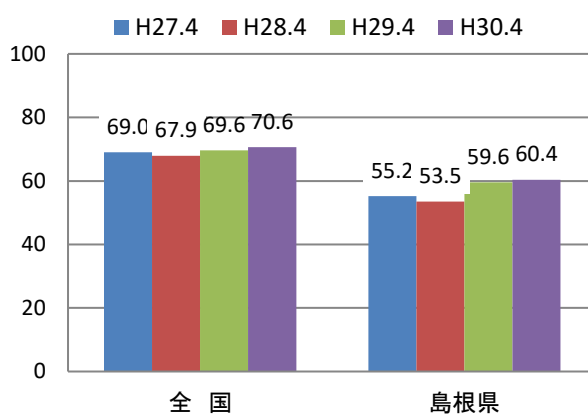


3 中学校の授業時間以外の学習（家庭学習も含めて）を充実する工夫が必要です

生徒質問紙調査で「学校の授業時間以外に、平日1時間以上勉強している」中学校3年生の割合は、右図のとおり60.4%で、全国と比べると-10.2ポイントでした。全国調査が始まって以来、初めて60%を超えましたが、全国と比較するとずっと厳しい状況が続いています。学習の手引きを使って学習の仕方を説明したり、自学ノートを使って家庭学習の習慣化を図ったりと、様々な取組が各中学校で行われていますが、なかなか家庭学習等の充実につながっていません。

学校質問紙で「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか」という問いに対して、「よく行った」と「どちらかといえば行った」を合わせた割合が、中学校では昨年度68.7%だったのが、87.4%に伸びました。（全国比、昨年度-18.9ポイントから今年度-4.5ポイント）また、「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか」という問いに対しても、「よく行った」と「どちらかといえば行った」を合わせた割合が、中学校では52.6%から57.9%と伸びています。しかし、全国と比較すると、依然として-15.8ポイントと開き

学校の授業時間以外に、平日1時間以上勉強をしている（中3）



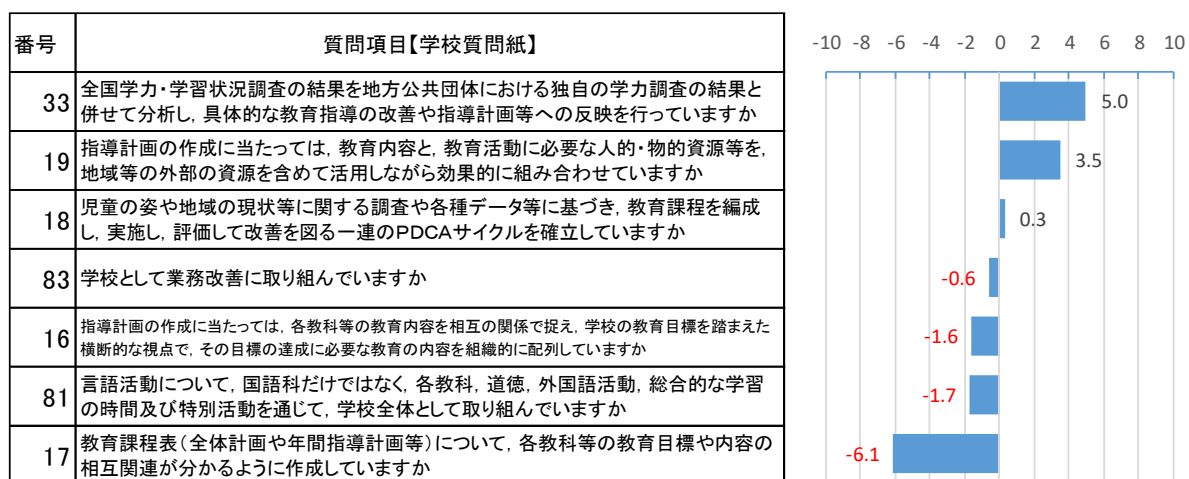
があります。家庭への働きかけや、宿題・課題の与え方についても、教職員で話し合いを行い、さらなる工夫が必要です。

4 学校全体で「カリキュラム・マネジメント」の充実や、「主体的・対話的で深い学び」の視点による学習指導の改善の取組を進める必要があります

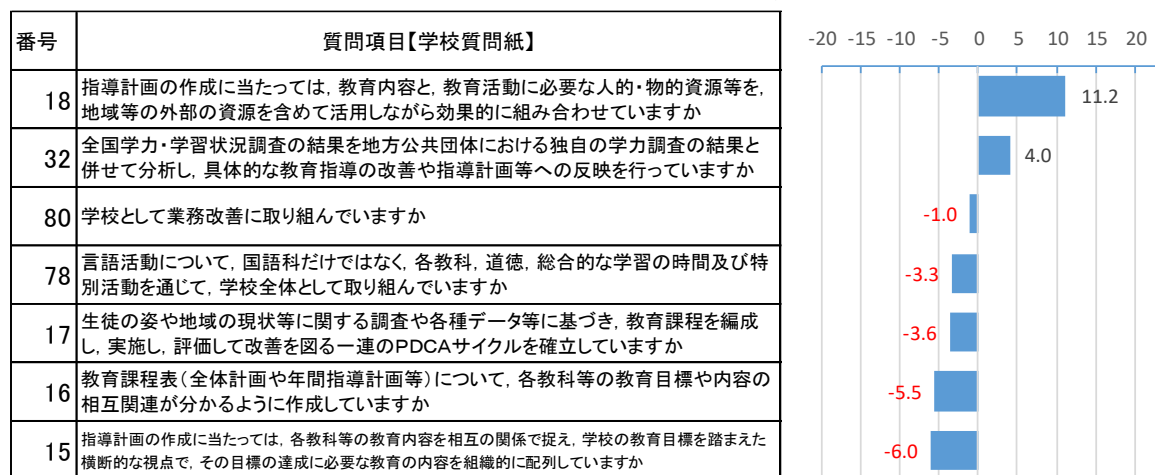
全国調査の学校質問紙調査のうち、「カリキュラム・マネジメント」に関する項目と「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の実現に関する項目をピックアップしてみました。

(左の表の番号は、学校質問紙の番号。右のグラフは、肯定的な回答が全国平均より高いものを＋、全国平均より低いものを－で表しています。)

小学校学校質問紙



中学校学校質問紙



上の2つの表とグラフは、学校質問紙のうち「カリキュラム・マネジメント」に関する項目だけを拾ったものです。小学校においては、「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか」という問いに対する肯定的な回答が全国を上回っています。これまでの調査でも、対象学年・教科だけでなく、学校全体で教育活動を改善するために自校の分析結果を活用している小学校が多かったので、この傾向は続いています。中学校では「指導計画の作成に当たっては、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み

合わせていますか」という問いに対する肯定的な回答が全国を上回っています。

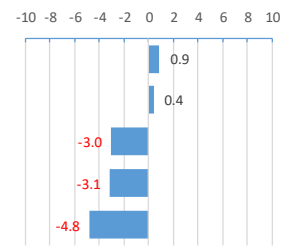
しかし、小学校、中学校ともに「教育課程表（全体計画や年間指導計画等）」について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか」という問いに対しては、肯定的な回答が低い状況にあります。新学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントの充実が強調されていますが、4月の調査時の段階では、県内の小・中学校では十分でないところがあったことが明らかになりました。各校の状況を改めて確認いただき、来年度以降のカリキュラム・マネジメントの充実に努めていただければと思います。

次の表とグラフは「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善の取組状況に関する学校質問紙の項目をまとめたものです。前述のように、児童生徒質問紙では、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した児童生徒が増えてきていますが、学校質問紙からは課題も明らかになってきました。

小学校では「習得・活用及び探究の学習課程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」や「児童に対して、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いてくる宿題を与えましたか（国語・算数共通）」という問いに対して、肯定的な回答が低い状況にあります。

小学校学校質問紙

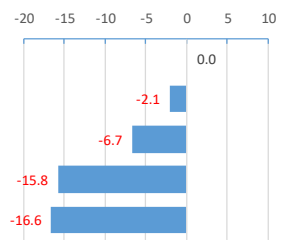
番号	質問項目【学校質問紙】
13	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか
30	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか
26	調査対象学年の児童に対して、前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか
65	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／算数共通）
22	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



中学校では、「生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」や「生徒に対して、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語・数学共通）」という問いに対して肯定的な回答が全国平均を大きく下回っています。

中学校学校質問紙

番号	質問項目【学校質問紙】
29	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか
21	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか
25	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか
62	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか（国語／数学共通）
13	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか



新学習指導要領の全面実施も近づいてきています。自校の児童生徒に身につけてもらいたい力を育成していくためには、授業改善は避けては通れないものです。自校の全国調査結果を分析し、児童生徒のための授業改善に学校全体として取り組んでいくことが大切です。

その際、しまねの教育情報 Web（エイオス）に掲載しています各種の授業例や、各種教育団体の先駆的な取組を参考にしたり、国立教育政策研究所HPから「授業アイデア例」をダウンロードして研究したりすることが、求められます。

【家庭向け】

「全国学力・学習状況調査」の結果分析（島根県と全国の比較から）

平成30年度全国学力・学習状況調査の島根県の結果については、島根県教育委員会教育指導課HP（<https://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/zenkokugakuryoku.html>）にも掲載しております。平均正答率や全国平均との比較などについては、そちらをご覧ください。

『算数・数学の島根県の平均正答率は低いらしい』ということは、報道等で目にするが、そもそもどんな調査なのかよくわからない」という声を聞くことがあります。保護者の皆さんが、これまで経験してこられた定期テストや業者テストとは、ずいぶん違う調査です。小学校6年生対象の調査の一部を紹介しますので、ご覧ください。詳細については、国立教育政策研究所のHP（<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>）にあります。

小学校6年生国語A

オ 3 2 1 三角形の面積を求め、大卒でよい成績を残す、担任の新しい仕事をやる。

ウ 3 2 1 細かい説明をほめて、ノートの文字を直す、運動会で赤旗が立つ。

エ 3 2 1 かん紙した作品を先生に見せる、近くの警察官に道をたずねる、ピーカーと試験官を水で洗う。

ア 3 2 1 短い時間で気をつける、新しい島の魅力を調べる、通算席のやせをせり理する。

イ 3 2 1 新しい理財をもりける、朝のやぐの希望を聞く、遠くへボールを投げける。

【ノートの一部】

おかし店の見学に行ってきたこと

- 調理場には、生糸を繰る機械など、せいでに必要なたつ備がある。
- 衛生を保つために、調理器具などを一日に何度もとうきする。
- お客様においしいおかしを食べてもらうために、品質をしっかりとかん理している。
- 地元の野菜や果物などを使った新しいおかしをせつ格的に開発している。

小学校6年生算数B

5 さくらさんたちは、学校の黒板に輪かざりをつけようと思い、先生から折り紙をもらいました。折り紙の枚数は100枚でした。

1枚の折り紙からは、折り紙の輪を5個作ることができます。折り紙の輪を30個つなげて、輪かざりを1本作ります。

輪かざり1本の作り方

- ① 折り紙を同じはばで5つに切ります。
- ② 切った折り紙のにはし部分にのりをつけて、もう一方のはし部分と重ねてはりあわせると、折り紙の輪が1個できます。
- ③ 折り紙の輪を次のようにつなげていきます。
- ④ 折り紙の輪を30個つないだものを、輪かざり1本とします。

さくらさんたちは、図1のように、横の長さが7mの黒板を、50cmずつに区切って、上の部分に輪かざりを1本ずつたるませながらつけようとして計算しています。

図1

(1) 横の長さが7mの黒板の、はしからはしまで輪かざりをつけるためには、折り紙の枚数が100枚あれば足ります。そうたさんは、そのわけを、次のように説明しようとしています。

【そうたさんの説明】

黒板の横の長さは7mなので700cmです。
黒板のはしからはしまで輪かざりをつけるために必要な輪かざりの本数は、 $700 \div 50 = 14$ で、14本です。

【そうたさんの説明】に続くように、折り紙の枚数が100枚あれば足りるわけを、式や言葉を使って書きましょう。

もらった折り紙は、赤、青、黄、緑の4色が、それぞれ同じ枚数ずつありました。

さくらさんは、折り紙の輪を、図2のように、赤、青、黄、緑の順にくり返してつなげ、輪かざり1本を作ってみました。

図2

(2) 上の図2のように、1個目の折り紙の輪の色を赤にして、輪かざり1本を作ったとき、30個目の折り紙の輪の色は何色ですか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 赤
- 2 青
- 3 黄
- 4 緑